

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192200018		
法人名	株式会社 共寿		
事業所名	グループホーム南濃「福寿苑」		
所在地	岐阜県海津市南濃町松山4番台426-1番地		
自己評価作成日	平成29年12月29日	評価結果市町村受理日	平成30年3月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/idx.php?act=on_kouhyou_detail_2017_022_kami-tru&ki_gyosyoQd=2192200018-008PrfQd=21&Versi_onQd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成30年1月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所では入所者様がその人らしい暮らしを継続できるように個別ケアに力を入れています。「その人らしさ」については、入所前のアセスメント、入所後も本人や家族の方から情報を得たり日々の暮らしぶりから職員が把握し共有するよう努めています。介護度の高い方は残存能力の維持に努め、お元気な方は自分本位の暮らしが送れるよう見守り中心とするなど、入所者様全員に過不足のないケアを行っています。定期的に全員で外出の機会を持っていますが、個別に買い物や外出に出かけるなど柔軟に対応しています。ご家族とは信頼関係の下、「入所者様を支える」という共通の役割を持っていただき協力関係を築いています。職員は、「入所者様は人生の先輩である」ことを常に念頭に置き、安全で快適な生活が送れるよう自尊心に配慮したケアの実践を心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

入居者一人ひとりの思いを確認するため、外出や入浴など1対1になれる場面を意図的に作り思いを聞いている。聴取した利用者の思いは職員で周知できるよう申し送りやミーティングで伝えている。ケアプランに沿った実践状況を生活記録に記入し、モニタリングに活かすサイクルを確立している。職員は理念に沿った「ぬくもり、ゆとりある空間」を意識しており、利用者を急がせることなくその方のペースで支援している。重度化となっても慣れ親しんだ事業所での生活が継続できるよう寝台浴も設置しており安心して過ごせる環境が整っている。重度になっても日常生活が楽しめるよう外出支援を行い「その人らしさ」を大切にケアをしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を毎月の会議時に全員で唱和、さらに事業所内各所に貼り、理念の共有、ケアの実践に努めている。また、ユニットでは月間目標を作り、朝夕の申し送り時に唱和している。職員も個々に年間目標を立て実践に努めている	「ぬくもり、ゆとりある空間を大切に」を理念に掲げている。その人らしくゆったり過ごしてもらえるよう、ことばのかけ方に注意し、ケアの実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者の必要とする物品と一緒に近隣の店へ買い物に行ったり、受診の帰りに喫茶店に寄ることがある。地域のつながりとしては、地域住民から野菜の差し入れがあったり、イベント開催時に施設入り口に案内を貼りだし地域住民の参加を呼びかけている。	書道教室やフォークソング演奏など事業所でイベントを行う際には、事業所の玄関や近隣の店舗にお知らせを貼り、地域住民に呼びかけている。自治会に加入しており、祭りには、こども神輿が事業所に立ち寄っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	電話や訪問などの問い合わせには、共感的姿勢で傾聴し、支援の方法やアドバイスを含めた情報提供を行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政、地域、家族が出席し、アクシデントの状況報告などをもとに意見交換している。その内容を職員の全体会議でも報告し、サービス向上に活かしている	推進会議のメンバーには消防署や警察などそのとき話し合う内容に応じた地域の公的機関の参加を図っている。各メンバーから出された意見はミーティング等で職員に周知し支援に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の非常時放送設備が置かれ、徘徊高齢者SOSネットワークに認定されている。ケアサービス向上連絡会、ケアプラン支援協働事業に出席し、事業所の実情や取り組みについて伝えている	法人事務局を通して市との連携を図り直接のやり取りは推進会議や連絡会参加の時となる。連絡会では事業所紹介をするなど行政への透明化につなげている。利用料の滞納がある利用者の件を市町村に相談し解決している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関の施錠は行わず、自由に出入りできる。利用者が一人で外に出た時は、職員が見守り寄り添うことにより離設には至らない。かかわり方や言葉かけを含めケアについては、勉強会や会議で話し合いなどそのつど取り組んでいる	玄関の施錠はしておらず自由に出入り出来る様にしている。勉強会を開催し拘束とならないケアをしている。又、事案が発生する場合はケースごとに確認し拘束とならないよう話し合いながらケアをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の関わりの中で注意してケアにあたり、必要に応じて個別指導、または全体で研修を行い職員に周知徹底している		

グループホーム 南濃「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市のケアサービス向上連絡会の研修に参加し、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、必要に応じて内部研修を行うようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、事業所のケアや取組み、退所を含めた対応可能な範囲について説明を行っている。又、内容に変更が生じた場合には、そのつど説明し同意を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時に、ユニット職員の他に看護師、ケアマネも意見や要望を聞く機会を持っている。他に家族アンケートの実施や意見箱の設置など取り組んでいる	家族の面会時に、声をかけ状態を伝えながら意向も確認している。家族より行事予定を知りたいと希望があり行事カレンダーを玄関に貼った。又、年1回アンケートを取り要望など利用者、家族の思いを確認している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、職員が日頃から意見や相談、要望を言える関係作り、職場作りに努めている。ほかに自己評価表の作成、年2回の個別面談を実施している	管理者も現場に入り職員と同じケアをすることで話を聞きやすい体制を敷いている。職員からは業務相談が多く、それらはミーティングで話し合いをしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の研修会への参加及び資格取得に向けた支援を行い、人材育成、能力開発のための体制を示し、職場内で活かせるよう労働環境づくりに努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外研修や内部研修においては年間計画を立て、職員が研修内容を共有し知識・技術の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアマネは、2ヶ月に1回市のケア向上連絡会に出席し、同業者との交流を定期的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には、必ず本人と事前面談を行う。安心を確保する為に笑顔で接し、心身の状態や家族関係、生活歴を把握する。本人の思いや要望を共感と受容の姿勢で傾聴し、安心して入所されるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安や要望を傾聴し理解した上で、当事業所における対応システム等を説明する。どのような対応ができるか話し合い、安心して利用できるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思い、状況等を確認し、改善に向けた支援の提案や相談を繰り返す中で、必要なサービスについては、検討していくよう努めている。(訪問マッサージの利用・歯科医の往診)		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩であることを忘れずに、本人の話に耳を傾け、お互いに冗談を言い笑い合えたり、相談に乗ってもらうなど助け合いながら共に生活が送れるよう関係作りに努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族に日々の暮らしの出来事や気づきの情報を伝えている。時には、本人にとってよりよい支援について相談、助言を仰ぐことがある。家族の思いに寄り添い、本人と家族の絆を大切にしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人の面会や電話がある。また家族の協力のもと、お墓参りや喫茶店などの外出の機会を持っている。家族の理解をいただきながら関係が継続できるよう支援に努めている	馴染みの関係が崩れないよう家族協力も得ている。家族との外出の際には、最近の状態や介護の方法を伝えストレスを感じることなく、出かけることができるように支援している。法要の際、利用者を送迎し車を出すこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中で利用者同士の関係を把握し、状況に応じ職員が間に入る。別ユニットの利用者とも合同の行事があり交流している。介護度の高低に関わらず、基本的に行事やレクは全員参加していただく		

グループホーム 南濃「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も本人や家族の相談があった場合、いつでもサポートし良好な関係を保つよう努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で本人の要望や意向を伺い、職員間で共有している。困難な場合は、表情や行動から把握するように努め、本人本位の立場に立ち職員間、家族で検討している	入浴や夜間など1対1となれる時間にはゆっくり話を聞き、思いや意向を申し送りや周知している。意思疎通の困難な方は仕種で読み取り統一したケアができるよう細かに介護計画書に記載している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からの情報を共有している。これまでのサービス利用については、担当者との面談、電話や書面で把握する		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の過ごし方など記録に残して共有し、把握に努めている。些細なことでも現状に変化がないか見逃さないよう留意する		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1度ケアカンファレンスを行っている。職員間で現状を話し合い、本人がよりよく過ごせるように介護計画の見直しや変更を行っている	介護計画には項目ごとに番号を付けた生活記録を毎日記入している。モニタリングは担当職員が行い、計画作成者が毎月カンファレンスを開催しケアの方法を検討、実践している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の中で気づいたことは、個別記録や申し送りで職員間で共有し、計画の見直しや実践につなげている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人のニーズが実現できるように、レクや外出支援、訪問マッサージなど、本人や家族の状況に応じて取り組んでいる。時には個別で外出支援を行う		

グループホーム 南濃「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議時に、自治会長や民生委員、市役所・消防署が出席し、地域の周辺情報や支援に関する情報交換など協力関係を築いている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望のかかりつけ医の受診を継続している。受診結果は個別記録に残し、職員間で共有している。家族は、同行または後で看護師から報告を受け常に受診結果を把握できている	受診は職員が付き添い、必要に応じて家族も同行し連携を図っている。かかりつけ医との連携が円滑となる様、看護師が必ず対応している。看護師は家族の面会時にも話す機会を作り、普段の状況を細かく報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は、日々の関わりの中で一人ひとりの表情や様子の変化に気づき、異常の早期発見に努めている。異常時は直ちに看護師に報告し、また不在時も職員と看護師は連絡しあい、適切な医療対応に努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はサマリーを作成し、利用者の情報提供を行う。また看護師は随時病院に顔を出し、本人の状態を把握している。家族や主治医、病院関係者と情報交換を行い、速い段階で退院できるように努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に事業所でできること、希望があれば施設で最期を迎えることができることを説明する。また本人や家族の意向を踏まえ、医師、看護師、職員で連携をとり、随時意志確認をしながら支援に取り組んでいる	事業所では看取り事例もあり、年1回看取りの外部研修にも参加しフィードバックの為の勉強会を開催している。重度化した場合や終末期に近い方は医師を交え話す機会を作り支援の方向性を細かく調整しケアにあたっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	いざという時に迅速な対応が出来るように救急法や蘇生術の内部研修を定期的に行い、急変時や事故発生時に備えている。また適切に対応できるように目の付くところにマニュアルが貼りだしてある		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	実際に煙を発生、夜間想定などの避難訓練を実施しており、訓練後は話し合っって課題を挙げている。近隣の地域住民でもある家族には、災害時の協力を要請し、訓練にも参加していただいている	推進会議を通し地域の安全な場所や避難先の助言を受けている。図面上で誘導シミュレーションを行い、避難経路の確保の意識付けを図っている。避難訓練では実際に煙を出し現実に近い場面での訓練で職員にも危機感を持たせている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ケアにあたる時、自尊心に配慮した声かけや対応を行っている。対応によって事務所の者が注意・指導するが、周りの職員がその場で注意するなど常に意識を持つことを支援している	居室の入口に暖簾をつけ目隠しを行いプライバシーを損ねないよう対応している。又、声掛けは「申し訳ありませんが」「恐れ入りますが」などのクッション言葉を使用するよう職員同士で声を掛け合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中で利用者が思いを気軽に言えるような雰囲気、関係作りに努めている。自己決定が困難な場合は、できるだけ引き出せるようなコミュニケーションを心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりに合ったペースで、その人らしく過ごせるように本人の希望を大切にしている。状況に応じてその都度本人と話し合い、希望に沿えるよう努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月美容師が訪問し、本人と相談しながら希望に沿った髪型にカットしたり次月に見合わせたりしている。服装においては、本人と相談して一緒に選んでいる		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	アセスメントシートを作成して一人ひとりの好みを把握する。職員は利用者と同じテーブルで昼食を食べ、時には外食やお弁当、たこ焼きなど一緒に楽しんでいる。できるだけ自分の力で食べれるように箸、スプーン、器など本人に合った物を用意している	週2回利用者と買い出しに出掛け、食べたいものを探っている。その日にあるものや利用者の要望から食事を提供している。利用者が「今日は何のご飯？」と聞くなど食事を楽しみにしている。嫌いな食材がある利用者には、他の食材に代替して提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は個別記録に記入し把握する。定期的に栄養士に献立を見てもらい、栄養バランスなど管理指導を受けている。食事の形状、軟らかさは一人ひとりに応じて調整し、水分は入浴後やレクの後、散歩の後など食事以外でも飲む機会を持っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態、有する力に応じて、準備、声かけ、見守り、介助など行い、口腔内の清潔保持に努めている。また必要に応じて歯科往診を受け、義歯の調整や口腔ケア指導を仰いでいる		

グループホーム 南濃「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄状況、パターンを把握し、必要に応じた支援を行う。自力で立てない利用者も日中はできるだけトイレで排泄していただく	毎回の排泄をチェックシートに記入し排泄パターンの把握をしている。また、その日の体調に合わせて、随時、職員が声掛けし、可能な限りトイレでの排泄に繋げている。カテーテルを外しトイレで排泄となった利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個別記録と申し送りにて排泄状況を確認、把握し、早期に便秘が解消できるように支援する。予防として、食事、水分摂取を考慮している □		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間帯や温度など一人ひとりの希望、こだわりに合わせて支援している。利用者と職員が1対1で向き合い楽しく語り合う場であり、利用者の真の思いを聞ける場でもある。重度の利用者は機械浴で入浴していただく	湯温や入浴剤、順番や入浴時間など毎回確認し週3回の入浴提供を実施している。一般浴のほかに寝台浴も設置しており、重度となっても入浴を楽しめる環境となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やその日の体調を考慮し、本人のペースで安心して休めるように空調管理、見守りなど支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的、副作用、用法、用量は、個別ファイルにて把握する。服薬の支援は状況に応じて行い、症状の変化は随時看護師に報告している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの好きなことや趣味を把握し、個々に合ったレクを提供したり、全員で楽しめる歌やゲームを支援している。本人の希望がある時は、個別に楽しめるものを提供し応じている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望時は屋外に出て散歩したり、日向ぼっこや花を觀賞する。また年間行事計画を作りボランティアの協力の下、季節の行事や外出支援(外食)を行っている。状況に応じて、個別に外出支援を行うことがある	天候が良い日はいつも散歩に出掛けている。桜やチューリップ見物など年間行事計画で外出の機会を作っている。個人的な外出は家族の協力も得ながら実施に繋げている。重度な方も外出する機会を作っており、外の空気を吸えるよう配慮している。	

グループホーム 南濃「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要な物品は利用者と一緒買い物に出かけ、職員が希望を聞き代わりに購入する、家族に依頼するなど一人ひとり個別に支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、本人の希望に応じて適切な時間にかけることができる。手紙が届いた時は本人に渡し、出す時は代わりに投函するなど支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりの席の位置、温度調整など配慮し、ゆったりした空間で居心地よく過ごせるよう努めている。また写真や作品など飾り、季節感、生活感を採り入れている	施設内は木材がふんだんに使われており天井も高く開放感がある。節分の鬼や巻き寿司などの作品や季節の花、置物を飾り、温かみのある空間を作っている。日の陰りによりカーテンの開け閉めで調整するなど明かりにも配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを置き好きな時間にテレビを視聴したり、日向ぼっこやおしゃべりの場として、廊下にもソファを設置している。陽だまりの中、和室でごろ寝する利用者もいる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者が居心地よく過ごせるように家具、ベッドの配置など配慮し、整理整頓を心がけている	ベッドは自宅と同じ配置にするなど配慮している。居室内のレイアウトは利用者と家族が自由に行っている。入居時に物品の持込制限は特に行っていないが、利用者の認知症状況によって飾りを制限している。	居室の飾りが少なく、「施設の部屋感」があり利用者らしさに欠ける。家族を巻き込み、その人らしく居心地のよい居室となるよう期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの心身の状況に合わせて、転倒事故につながる障害物の撤去など安全な環境を整え、出来るだけ自立した生活が送れるように支援している		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192200018		
法人名	株式会社 共寿		
事業所名	グループホーム南濃「福寿苑」		
所在地	岐阜県海津市南濃町松山4番台426-1番地		
自己評価作成日	平成29年12月29日	評価結果市町村受理日	平成30年3月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/21/i/index.php?act=ion_kouhyou_detail_2017_022_kani_true&ji_gyosyoCd=2192200018-00&PrEfCd=21&Ver:siOnCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成30年1月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を毎月の会議時に全員で唱和、さらに事業所内各所に貼り、理念の共有、ケアの実践に努めている。また、ユニットでは月間目標を作り、朝夕の申し送り時に唱和している。職員も個々に年間目標を立て実践に努めている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者の必要とする物品と一緒に近隣の店へ買い物に行ったり、受診の帰りに喫茶店に寄ることがある。地域のつながりとしては、地域住民から野菜の差し入れがあったり、イベント開催時に施設入り口に案内を貼りだし地域住民の参加を呼びかけている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	電話や訪問などの問い合わせには、共感的姿勢で傾聴し、支援の方法やアドバイスを含めた情報提供を行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政、地域、家族が出席し、アクシデントの状況報告などをもとに意見交換している。その内容を職員の全体会議でも報告し、サービス向上に活かしている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の非常時放送設備が置かれ、徘徊高齢者SOSネットワークに認定されている。ケアサービス向上連絡会、ケアプラン支援協働事業に出席し、事業所の実情や取り組みについて伝えている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関の施錠は行わず、自由に出入りできる。利用者が一人で外に出た時は、職員が見守り寄り添うことにより離設には至らない。かかわり方や言葉かけを含めケアについては、勉強会や会議で話し合いなどそのつど取り組んでいる		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の関わりの中で注意してケアにあたり、必要に応じて個別指導、または全体で研修を行い職員に周知徹底している		

グループホーム 南濃「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市のケアサービス向上連絡会の研修に参加し、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、必要に応じて内部研修を行うようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、事業所のケアや取組み、退所を含めた対応可能な範囲について説明を行っている。又、内容に変更が生じた場合には、そのつど説明し同意を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時に、ユニット職員の他に看護師、ケアマネも意見や要望を聞く機会を持っている。他に家族アンケートの実施や意見箱の設置など取り組んでいる		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、職員が日頃から意見や相談、要望を言える関係作り、職場作りに努めている。ほかに自己評価表の作成、年2回の個別面談を実施している		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の研修会への参加及び資格取得に向けた支援を行い、人材育成、能力開発のための体制を示し、職場内で活かせるよう労働環境づくりに努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外研修や内部研修においては年間計画を立て、職員が研修内容を共有し知識・技術の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアマネは、2ヶ月に1回市のケア向上連絡会に出席し、同業者との交流を定期的に持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には、必ず本人と事前面談を行う。安心を確保する為に笑顔で接し、心身の状態や家族関係、生活歴を把握する。本人の思いや要望を共感と受容の姿勢で傾聴し、安心して入所されるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安や要望を傾聴し理解した上で、当事業所における対応システム等を説明する。どのような対応ができるか話し合い、安心して利用できるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思い、状況等を確認し、改善に向けた支援の提案や相談を繰り返す中で、必要なサービスについては、検討していくよう努めている。(訪問マッサージの利用・歯科医の往診)		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩であることを忘れず本人の話を聞き、時には相談事などの話をしたり支え合い助け合いながら共に生活が送れるよう努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族に日々の暮らしの出来事や気づきの情報を伝えている。時には、本人にとってよりよい支援について相談、助言を仰ぐことがある。家族の思いに寄り添い、本人と家族の絆を大切にしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日々の生活の中で利用者同士の関係を把握し、状況に応じ職員が間に入る。レクや行事を通じて、利用者同士が関り、支えあう関係作りを支援している		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中で利用者同士の関係を把握し、状況に応じ職員が間に入る。別ユニットの利用者とも合同の行事があり交流している。介護度の高低に関わらず、基本的に行事やレクは全員参加していただく		

グループホーム 南濃「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院時の受け入れ先や退所後も本人や家族の相談があった場合、いつでもサポートし良好な関係を保つよう努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関りの中で本人の思いや意向を聞き取り把握する。困難な場合は、表情や行動から汲み取り本人にとって最善な支援ができるよう家族と協力し、本人本位の視点に立ち検討している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートを用いて、本人、家族、知人の情報を元にこれまでの生活歴を全職員が把握できるようにしている □		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや個別記録に言動や身体状況の変化など記載し、移り変わりなど素早く気づけるように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回及び必要時にはモニタリングを行い、課題ケアについての見直し、検討を行う。本人、家族、医療機関などと連携し介護計画を立てている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や状況、ケアの内容など個別記録に記入し、職員間で情報の共有、把握を行っている。介護計画については、毎月のモニタリングにて現状に応じて見直ししている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズに合わせて、その時々で必要な援助や支援に取り組んでいる		

グループホーム 南濃「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議時に、自治会長や民生委員、市役所・消防署が出席し、地域の周辺情報や支援に関する情報交換など協力関係を築いている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望のかかりつけ医の受診を継続している。受診結果は個別記録に残し、職員間で共有している。家族は、同行または後で看護師から報告を受け常に受診結果を把握できている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は、日々の関わりの中で一人ひとりの表情や様子の変化に気付き、異常の早期発見に努めている。異常時は直ちに看護師に報告し、また不在時も職員と看護師は連絡しあい、適切な医療対応に努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はサマリーを作成し、利用者の情報提供を行う。また看護師は随時病院に顔を出し、本人の状態を把握している。家族や主治医、病院関係者と情報交換を行い、速い段階で退院できるように努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に事業所でできること、希望があれば施設で最期を迎えることができることを説明する。また本人や家族の意向を踏まえ、医師、看護師、職員で連携をとり、随時意志確認をしながら支援に取り組んでいる		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	いざという時に迅速な対応が出来るように救急法や蘇生術の内部研修を定期的に行い、急変時や事故発生時に備えている。また適切に対応できるように目の付くところにマニュアルが貼りだしてある		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	実際に煙を発生、夜間想定などの避難訓練を実施しており、訓練後は話し合って課題を挙げている。近隣の地域住民でもある家族には、災害時の協力を要請し、訓練にも参加していただいている		

グループホーム 南濃「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者個々に合わせた話し方、聞き方、プライバシーを尊重した介護の仕方を工夫し実践に努めている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃からこまめに会話し、思いを汲み取り、自己表現できる関係を築いている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望に沿う生活スタイルを重視し、身体状況にあった支援をしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月美容師が訪問した時は、本人と相談し希望に沿った髪型にカットしている。衣類も本人に選んでいただく		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々に合わせた食事形態で、職員も介助しながら一緒に同じテーブルで楽しく食事を摂っている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は個別に記入し把握する。水分は、食事以外に10時15時入浴後も飲む機会を持っている。本人希望の飲み物も用意している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの能力に応じて準備、声かけ、見守り、一部介助など行い、口腔内の清潔保持を支援している		

グループホーム 南濃「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、必要に応じて着誘導、着脱、後始末など支援を行っている。立位困難な利用者も二人介助にてトイレを使用する。意思を伝えられない利用者の場合は言動などのサインを見逃さないようにしている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の排泄状況を把握し、水分補給の徹底、運動、薬による排便コントロールを行っている。また便秘になりやすい利用者に対しては、看護師と連携し、本人の負担にならないように支援している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの日々の状況に合わせて、時間帯や温度、入浴方法など個別に対応している。重度の利用者は、機械浴にて二人介助で入浴している		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調や気分に合わせて休息したり、夜間眠れるように照明を調節するなど、安心して休まれるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容や副作用、用途を個別にカルテにファイルし、職員にわかるように工夫している。服用時は口中に直接入れた後、服薬確認し誤薬・落薬防止に努める		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や好きなことや趣味を把握し、個々に合ったレクを提供している。全員で楽しめる歌やゲームを支援している。また希望があれば個別に楽しめるものを提供したり、職員と共同で軽作業や飾り物を作ったりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	1年を通じて四季を楽しめるように外出を行ったり、誕生日には外食を行っている。また行事や外出時には家族にも声をかけ参加していただいている		

グループホーム 南濃「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談し本人が納得した上で金銭は事務所で預かる。必要な物品は、利用者と一緒に買い物に出かける、または職員が希望を聞き代わりに購入する		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、本人の希望に応じて適切な時間にかけることができる。手紙が届いた時は本人に渡し、こちらから出す時は本人に代わり投函している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	気持ちよく過ごせるように席の位置、温度調整など配慮する。状況に応じて席を替える。リビングは季節に応じた手作りの物や利用者の作品、行事の写真が飾ってある		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	他の利用者や職員とくつろいだり、家族が面会時に一緒に過ごせるようにリビングにソファを用意している。また和室にも、座卓(掘りごたつ)があり、職員と会話を交えながらくつろぐ場面が見られる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者が居心地よく過ごせるように家具、ベッドの配置など配慮している。また本人の希望や身体状況に応じて畳を使用できる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの心身の状況に合わせ、安全な環境を整え、出来るだけ自立した生活が送れるように支援している		